

5章 分析結果のまとめと健康課題

各種データの分析結果から、本市の現状と課題を明らかにし、取り組むべき健康課題を整理します。

1. 分析結果について

(1) 医療費(レセプトデータ)から

平成 25 年度～平成 27 年度(平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月)における本市のレセプトデータを集計・分析し、医療費が高い疾患や患者数の多い疾患などを明らかにしました。

レセプトデータからのまとめ
以下の分析結果から、高額な医療費となる疾病の予防には生活習慣病の重症化予防が必要であり、中でも医療費が高額となる人工透析のリスク要因である糖尿病に焦点をあて介入を行うことが効果的であると考えます。
①全医療費に占める高血圧性疾患などの循環器系疾患の医療費が高く、患者数が多い。
②糖尿病、高血圧性疾患などの生活習慣病の医療費の割合が高く患者数も多い。
③患者数は多くないものの、全医療費に占める新生物の医療費の割合が高く、白血病をはじめとした悪性新生物において、1人あたりの医療費がほかの疾病と比較して高い。
④新規に人工透析に移行する患者は、継続して国保に加入している方が多い。
⑤新生物医療費の9割以上が悪性新生物の医療費である。
⑥脳内出血やくも膜下出血などの循環器系疾患において、1人あたりの医療費が高い。
⑦1人あたりの医療費は、ほぼすべての世代において新生物が最も高い。
⑧糖尿病患者が増加傾向にあり、糖尿病患者が重症化し人工透析となった場合、医療費が高額となる。

(2) 特定健康診査・特定保健指導(健診データ)から

平成 25 年度～平成 27 年度の特定健診の検査結果を分析し、本市の傾向を明らかにし、レセプトデータとのクロス集計を行い、特定健診のリスク群における特徴などを分析しました。

健診データからのまとめ
以下の分析結果から、50歳以上は血圧・血糖のリスクが高くなり、40～54歳までは肥満のリスクが高く、早期の生活習慣の改善が必要である。 また、特定健診の3年連続未受診者が多く、健康状態が把握できていない方も多い。このことから、健診受診の重要性を理解してもらい受診行動につなげ、その後の保健指導の実施につなげる必要がある。
①特定健診の結果において、血糖リスク群の人数が増加傾向にある。
②BMIリスク群(肥満)は、BMIが標準及び痩せであった方よりも医療費が高い。
③健診において、3年連続未受診者が全体の約52%と過半数の健康状態が不明となっている。

(3) 介護保険(介護データ)から

平成 25 年度～平成 27 年度(平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月)における本市のレセプトデータや介護データを集計・分析し、介護給付費や介護認定者の状況などを明らかにしました。

介護データからのまとめ
次の分析結果から、加齢に伴う機能低下を防ぐための介護予防と、生活習慣病の対策が必要である。
①本市の介護給付は、高齢化に伴い年々増加傾向にある。
②年齢階級別の給付では、高齢になるにつれて介護の需要が高まっており、70～74 歳の介護給付は、65～69 歳の約 2 倍を占めている。
③要介護認定者は、認定のない方に比べ、医療費が約 2.5 倍多い。

2. 分析結果のまとめ

分析結果から、疾病別に比較すると「医療費」では腎不全、糖尿病、高血圧性疾患、「患者数」では高血圧性疾患、「患者 1 人あたりの医療費」では腎不全が上位に位置しています。

さらに、「5 万点以上の高額レセプト」では、60 歳以上の被保険者が医療費、患者数とも全体の 8 割以上を占めています。このことから生活習慣を起因とした疾病を抱える患者数やそれにかかる医療費が大きいことが分かります。

人工透析患者についてみると、65 歳以上が過半数を占めており、1 人あたりの人工透析患者の年間医療費は、537 万 3,052 円で、透析患者の多くが脂質異常症や高尿酸血症を含む「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」、「高血圧性疾患」、「糖尿病」といった生活習慣病を併発しています。

このことから、生活習慣病の早期発見・早期治療及び疾病の予防をすることが、新たな患者数を増やさないことになり、医療費の増加を抑制することにつながる可以考虑、特定健診の受診率及び特定保健指導の実施率の向上を目指すものです。

3. 取り組むべき健康課題

分析結果のまとめから重点的に取り組むべき健康課題を次のとおりとしました。

(1) 生活習慣病の予防

生活習慣に起因して発症する糖尿病・高血圧性疾患などは、疾病別医療費(中分類)の上位を占めており、また、疾病別患者数(中分類)でも上位を占めています。

このことから、早期からの生活習慣病予防対策を講じる必要があり、特定健診受診率、特定保健指導実施率、特定健診事後指導の実施率を上げることで生活習慣病の早期発見・早期治療につなげます。

(2) 重症化の予防

医療費のデータから、40 歳代の男性や 50 歳代の女性において糖尿病の 1 人あたりの医療費が高い傾向があります。また、疾病別医療費(中分類)では、腎不全が約 2 億 4,400 万円と糖尿病、高血圧性疾患を抜いて 1 位となっています。このことから、特定健診受診者の内、生活習慣に起因して発症する糖尿病予備群に対して重症化予防事業を実施することで、腎症の悪化を防ぎ、新規に腎不全になる方をなくす必要があります。